

感染症情報

新型インフルエンザ（H5N1型）が感染症法2類に追加

平成19年3月26日に新型インフルエンザ専門家会議において医療体制に関するガイドラインが策定されています。今回はそのガイドラインの要点を紹介いたします。

第1段階（県内未発生）

- ・発熱相談センターの設置
 - 早期発見
 - 直接受診による感染拡大防止
 - 心理サポート
 - 対応医療機関の負荷均等化
- ・感染症指定医療機関等の即応体制整備
 - 感染症指定医療機関（病床数を拡大）
 - 都道府県から病床確保を要請した病院
- ・全ての医療機関での受け入れ準備

第2段階（県内発生）

- ・指定医療機関等での診療
 - 受診医療機関は指定医療機関へ患者転送
 - 自家用車、あるいは自院の搬送車
 - 緊急時には救急車の利用
- ・発熱外来の設置
 - 30分以内の受診できる程度の数
 - 形態は県で決定（指定医療機関に併設、診療所、プレハブ設置、公民館・体育館）

第3段階（入院勧告解除）

- ・・・入院勧告による感染拡大防止が困難指定医療機関等が満床・・・
- ・発熱外来を維持
- ・医療機関
 - 新型インフルエンザ診療を行う病院は届出
 - 診療病床の確保
 - 非インフルエンザ患者との物理的隔離
- ・新型インフルエンザの診療は行わない機関
都道府県の判断で設置してよい

第4段階（病床数を超える患者発生）

- ・医療機関外の医療提供体制（施設）の確保
地域医師会と連携し施設内での診療体制
医療法上の医療施設と見なさない
公的研修施設等の宿泊施設

第5段階（終息傾向）

- ・発熱相談センター／発熱外来を中止
- ・被害の把握・分析
- ・罹患後回復医療従事者の活用
- ・通常医療への復帰
- ・第二波への備え

世界保健機関（WHO）による

現在のパンデミックインフルエンザ警報フェーズ

日本は現在フェーズ3

パンデミック間期	ヒト感染のリスクは低い	1
動物間に新しい亜型ウイルスが存在するがヒト感染はない	ヒト感染のリスクはより高い	2
パンデミックアラート期	ヒト-ヒト感染は無いが、または極めて限定されている	3
新しい亜型ウイルスによるヒト感染発生	ヒト-ヒト感染が増加していることの証拠がある	4
	かなりの数のヒト-ヒト感染があることの証拠がある	5
パンデミック期	効率よく持続したヒト-ヒト感染が確立	6

パンデミック

とは地理的に広い範囲の世界的流行および、非常に多くの数の感染者や患者を発生する流行を意味する

麻疹・水痘・風疹・流行性耳下腺炎に罹患した記憶がありますか？

厚生労働省ポスタ

感染症情報

2008年1月1日より

麻疹・風疹の発生報告

全数把握(すべて報告)

平成19年、10代・20代中心に流行が発生し、多数の学校が休校処置を行うなど社会的混乱が起きています。

麻疹排除に向けて全数届け出、正確な情報の把握に取り組み始めました。



医療者が流行性ウイルス疾患に罹患する



患者に伝播するリスクが高くなる



抗体価を把握し、抗体価が低い場合は予防接種を受けましょう

7月職員検診で麻疹・水痘・風疹・流行性耳下腺炎の

抗体価測定をする予定です

抗体価が低い医療者にはワクチン接種の機会を設けます

ので必ず受けてください！

金沢医科大学氷見市民病院ICT発行

はしかにならないために。
はしかにさせないために。

予防接種を受けたことがない人は勿論、
1回受けたことがある人も
2回目の予防接種を受けましょう。

対象者 中学1年生と高校3年生に相当する年齢の者
(麻しん及び風しんに罹患したことが確認できず、かつワクチンも2回接種した者は接種を受ける必要はありません。)

実施期間 平成20年度～平成24年度の5年間

接種時期 中1、高3に相当する年度(4月1日から3月31日)の1年間
(9月以降になる人は、前3年になるまで接種が完了していますので、実施法に必ずお読みください。)

特に勧奨する接種期間 年度の最初3ヶ月間(4月から6月まで)

使用するワクチン 原則として麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)

お問い合わせ 厚生労働省 健康局 総務感染症課 TEL:03(5253)1111 (内線2383)

2008年4月より第3期麻疹予防接種が始まりました(今後5年間)

対象者: その年度の**中学1年**、**高校3年生**(中学1年は各学校で、高校3年は各医療機関で接種)

